

<6月24日(土)-6月25日(日)第3戦レポート>

2017 D1 GRAND PRIX SERIES Rd.3 TSUKUBA DRIFT

コースコンディション：ウエット→ドライ

コースコンディション：ドライ(予選)

PACIFIC RACING TEAM DUNLOP 野村 謙選手(車両:NAC ガールズ&パンツァーR34 DUNLOP BRIDE)

最終成績：単走予選不通過

<本文>

6月24、25日の週末、茨城県・筑波サーキットでD1GP第3戦が開催された。梅雨の期間中ではあったが、予選日は晴れ、決勝日も朝方に雨が降ったあとは雨もあがって、ほぼドライ路面で競技が行われた。

昨年はダンロップコーナーから第1ヘアピンまでを逆走で使用するコースレイアウトだったが、今季はコースを正回りで使用し、最終コーナー手前からスタートして第1ヘアピンを抜けて終わるという長い審査区間が設定された。しかし、1コーナーの途中からS字の進入までは審査区間外となるので、実質的に審査区間は最終コーナーから1コーナーまでの『表』と、S字から第1ヘアピンまでの『裏』の2区間に分かれることになる。

前戦は不運のトラブルでノーポイントに終わったものの調子は悪くない野村選手。事前の練習ではデフトラブルを起こしたが、それも問題なく修理して土曜日の予選日に臨んだ。

練習走行1本目。野村選手は審査区間の『表』は安定して点を揃えてきたものの、『裏』のS字区間で点が伸びない。車両には問題はなかったため、2本目はスポッターに『裏』区間を重点的に見てもらうことにした。

練習走行2本目。こんどは『裏』区間の走りかたを探り、それなりに点がとれる走りかたを探ることに成功。このコースでは、『表』区間でがんばったら『裏』区間で点が落ちるという相関関係はないため、両区間をきっちり走ればまずまずの得点がとれそうなメドが立った。

そして本番1本目。野村選手はクルマを前に進めつつ、絶妙な角度とラインで最終コーナーを抜けてくると、リズムよく振り返って1コーナーに進入した。ところが、1コーナーで突如ドリフトをやめ、コース脇に退避。クルマをストップさせてしまう。デフブローだった。これによって野村選手のマシンは走行不能になり、このまま単走予選敗退となってしまった。

なかなか成績こそ残っていないものの、野村選手の調子は悪くない。またマシンもいろいろな走りが試せるくらい自由度は高まっている。不運なトラブルが続いているが、それさえ払拭できれば、結果を残せそうな状況だ。次戦に期待！

<野村>

練習走行の際、解説を聞きながらほかの選手の走行を見ていたら、沢山のヒントが得られました。それを踏まえた最後の練習走行では予選通過の感触を得ることができ、本番に臨みました。

スタートしたあとスポッターからはいい感触の無線が入ってきました。「この調子でっ」と1コーナーに進入、回り込みながらアクセルをONしたら「バリバリ」という音と共にデフが壊れてしまいました。すごく手応えがあっただけに本当に残念ですが、多くのファンの皆さんも応援してくれているので諦めず行きたいと思います。